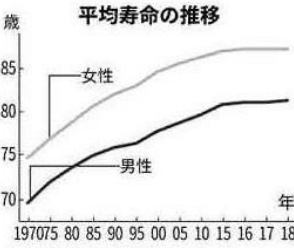


平均寿命男女とも最高

2018年の日本人の平均寿命は女性が87・32歳、男性が81・25歳で、ともに過去最高を更新した。厚生労働省が30日発表した。厚労省が17年に比べて女性は0・05歳、男性は0・16歳延びた。過去最高の更新は女性が6年連続、男性は7年連続。長寿社会の深まりにより、社会保障など幅広い分野の改革が求められている。

世界3位 **81.25歳**

世界2位 **87.32歳**



昨年、厚労省まとめ

国・地域別の平均寿命 (2018年)				
順位	男性		女性	
	1	香港	82.17	香港
2	スイス	81.4	日本	87.32
3	日本	81.25	スペイン	85.73
4	ノルウェー	81	韓国	85.7
5	スウェーデン	80.78	スイス	85.4

(注) スイス、スペイン、韓国は17年の数値。
(出所) 厚生労働省

厚労省は「日本人の三大死因であるがんや心疾患、脳血管疾患などの死亡率の低下が平均寿命を延ばしている。健康意識の高まりで、さらに寿命が延びる可能性がある」と分析した。平均寿命は死亡率が今後とも変わらないと仮定し、その年に生まれた0歳児があと何年生きられるかを表す数値。将来の社会保障、経済政策の方向を決める指標になる。18年生まれる日本人が

(注) 1970年は沖縄県を除く数値。
(出所) 厚生労働省

命が延びるといふ。平均寿命が延び続ける一方、18年の合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む子の推計数)は1・42にとどまり、同年に生まれた子どもの数は91万8397人で過去最低を記録した。今月に総務省が発表した人口動態調査でも日本人の人口は10年連続で減少している。また、自立して生活できず年を指す「健康寿命」は16年時点で女性は74・79歳、男性は72・14歳。平均寿命とは大きな開きがあり、高齢者が健康で暮らせる長寿社会を実現するための課題は多い。社会保障制度に詳しい法政大の小黒一正教授は「社会保障の改革が急務だ。現状のままでは医療費や介護費の国庫負担が増えるだけでなく、1人当たりの年金受給額も実質的に下がる。高齢者に貧困が広がるだろう」と指摘。その上で「社会保障の支え手を増やす必要がある。高齢でも働ける労働市場の整備や、貯蓄や投資など老後を見据えた資産形成の促進が大切だ」としている。

75歳まで生きる割合は女性が88・1%、男性が75・6%。90歳まで生きる割合は女性が50・5%、男性が26・5%。半数が生存していると推定される「寿命中位数」は女性で90・11歳、男性は84・23歳だった。がん、心疾患、脳血管疾患で死亡する確率は女性で45・52%、男性で50・06%。仮にこれらの病気で亡くなる人がゼロになれば、女性は5・55歳、男性は6・7歳、平均寿